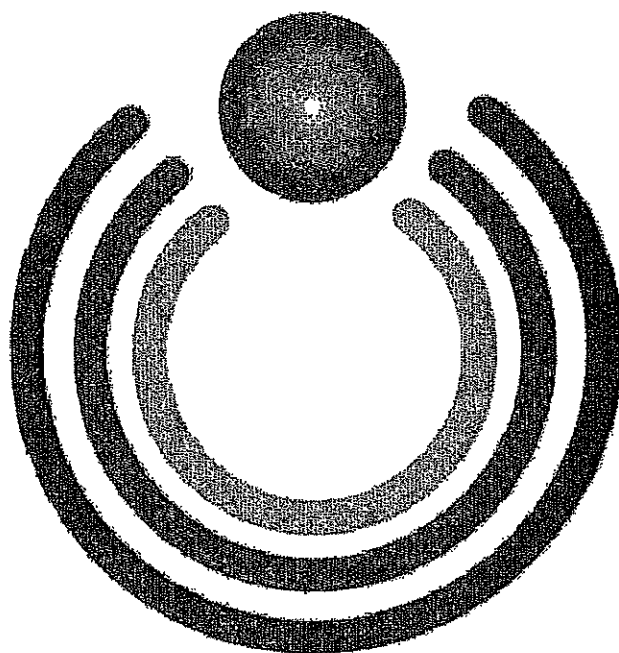


「認知症を知る1年」キャンペーンの シンボルマーク



このシンボルマークは、真ん中のブルーの球が認知症の本人を表し、それを家族であったり友人であったり、あるいは地域や社会全体を表す3本の輪が支えているという構図です。

「認知症を知る1年」キャンペーン情報について

■下記のホームページをご利用ください

▽認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議

<http://www.ninchisho100.net/>

▽認知症サポーター100万人キャラバン

<http://www.caravanmate.com/>

▽町づくりキャンペーン

<http://www.dcnet.gr.jp/campaign/>

▽だいじょうぶネット

<http://www.dai-jobu.net/>

(資料 7)

報告資料

第1回 認知症になっても安心して暮らせる町づくり 100人会議

■2005年7月8日(金) 霞が関東京會館■



2005年7月

認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議 事務局

議事次第

◆第1部 100人会議

1. 開会
2. 100人会議の経緯及び趣旨、役割について
3. 100人会議の規約について
4. 100人会議の議長選出について
5. 認知症への名称変更と今後の認知症対策について
6. 講演「認知症とは？」
7. 認知症サポーター100万人キャラバンについて
認知症講座デモンストレーション(協力:近江八幡市)
8. キャンペーングッズ等の紹介
9. 100人会議の会員紹介等
10. 100人会議宣言
11. 閉会

◆第2部 キャンペーン キック・オフ イベント

1. <地域活動報告①>
「みんなでつくろう！ひとにやさしい川崎のまち」
(神奈川県川崎市)
2. <地域活動報告②>
「『もの忘れ散歩のできるまちほんべつ』をめざして」
(北海道本別町)
3. <地域活動報告③>
「いつだって心は生きている～大切なものを見つけよう～」(福岡県大牟田市)

◆第1部 100人会議（報告抜粋）

挨拶

厚生労働大臣 尾辻秀久

認知症につきましては、現在でも介護保険の認定を受けられた高齢の方の二人に一人にその症状や影響が見られます。高齢化が急速に進みますわが国におきましては、最優先で対処すべき重要な課題となっております。厚生労働省といたしましても、認知症対策に積極的に取り組むことといたしておりまして、まずこれまでの痴呆という名称を認知症へと改めました。痴呆は法律上の用語でもありましたけれども、先月成立をいたしました介護保険制度改革関連法によりまして法令用語としても認知症に改まったところでございます。



さらにこの4月からは名称変更を契機に、認知症を知る1年と題したキャンペーンをスタートさせました。このキャンペーンの主旨は、認知症についての正確で具体的な情報を国民の皆様幅広くお届けをし、理解を深めていただきますとともに、認知症の方が暮らしやすい地域づくりを推進していくことにあります。認知症対策に関しましては、各種の施策の充実を今後一層図らなければなりませんけれども、それと並んで住民の方々や住民組織、地元企業などが参加した地域づくりがたいへん重要であると考えております。認知症の高齢者の方が住みなれた地域の中で、暮らし続けますためには徘徊した場合の周囲の対応でありますとか、ちょっとした生活面の支えや見守りを必要とします。また、昨今悪質な住宅リフォーム業者による詐欺事件が社会問題になっておりますけれども、悪質業者を取り締まることと合わせまして、被害に遭いやすい認知症高齢者の世帯を地域の目が守るということが有効な防御策になるのではないかと考えます。

こうした中、堀田先生をはじめとする各界の有識者の方々や、保健医療福祉、地方自治の関係団体、さらには私ども厚生労働省にとりましてはこれまであまりご縁のございませんでした生活関連産業の団体の方々、あるいはまた小、中、高等学校の関係者の方々が参加されて認知症を知る1年の推進母体をお作りいただきまして、啓発や地域づくりの応援団となっていただくことは実にありがたいことでございまして、勇気をいただく思いがいたしております。

皆様と一緒に手を携えて応援団の輪を広げつつ、全国各地が認知症になっても安心して暮らせる町になりますように厚生労働省としても精一杯努めてまいりたいと存じます。

100人会議の経緯及び趣旨、役割について

民間も、行政も一緒になって100人会議に参加して認知症の認識を広めよう

100人会議議長 堀田力

認知症は、認知症の方自身あるいは家族だけの問題ではなく、すべての人にとって人生を最後まで安心して過ごせるかどうかという国民全体の問題で、認知症になっても安心して暮らせる社会を作ることが日本の急務であります。



一昨年(2014年)の6月に、「2015年の高齢者介護」という提言をさせていただきました。この中で、認知症の方の尊厳をどのようにして確保するのかという提言をいたしました。尊厳ということでは痴呆という当時の言葉は問題ではないか、ということで昨年「痴呆にかわる用語の検討会」でいろいろと議論しました。名前を変えるだけではなくて認知症の方の状態、そしてその尊厳の確保について認識を共有する必要がある、国民的なキャンペーンの提言もいたしました。

それを受けて厚生労働省では、「認知症を知る1年」というキャンペーンを開始され、それと連動して認知症の方、家族の方が安心して暮らせる町づくりをしていきたいということでこの「100人会議」を呼びかけたわけであります。まず有識者の方の説得力、影響力を持って認識を広めよう。さらにいろんな団体、民も官も参加して広げよう。そういう主旨で本日発足することになりました。

本年度の主な取り組みといたしましては、認知症サポーター100万人キャラバンを進めるということが「100人会議」の主たる目的であります。この会議を今年立ち上げて、その先については、2009年までに認知症サポーターを100万人に広げていきたい。そして2014年にはすべての町を認知症になっても安心して暮らせる町にしたい、こういう目的を掲げて官も民も力を合わせてみんなが同じ気持ちになれるように努力してまいりたいと思っております。

認知症への名称変更と今後の認知症対策について

社会全体の力で対応をしていかなければならない

厚生労働省老健局長 中村秀一

要介護認定に該当されている方が400万人を超えています。その半数の方に認知症の症状があります。いま、約2千5百万人の65歳以上人口ですが、2015年には約3千3百万人に達し、後期高齢者の方が1千万人ですが、2025年には約2千万人になります。これからは認知症高齢者ケアをケアの標準と位置づける必要があります。



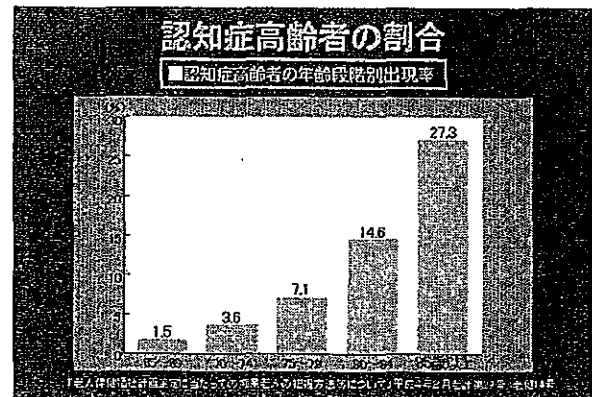
私どもとしてはこのキャンペーンを1年限りのキャンペーンに終わらせず、地域づくりを2015年に向けて、精力的に取り組んでいく必要があるのではないかと考えています。

それぞれの認知症の段階に応じたさまざまな課題があります。情報提供、キャンペーン、権利擁護、研究、地域づくり、人材育成などの課題があると思っております。今日、この「100人会議」を作っていただきましたことは本当に、われわれにとって大きな励ましでございますし単に行政だけではこのような大問題を進めていくことはできません。社会全体の力で対応をしていかなければなりません。これまで難しかった認知症対策についてこれまで以上に精力を注いでいかなければならないと思います。われわれもがんばりますが、ぜひ皆様方のご支援ご協力をお願いします。

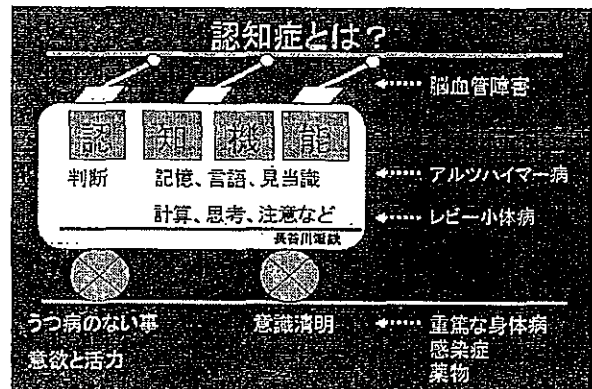
講演「認知症とは？」

認知症介護研究・研修東京センター長 長谷川和夫

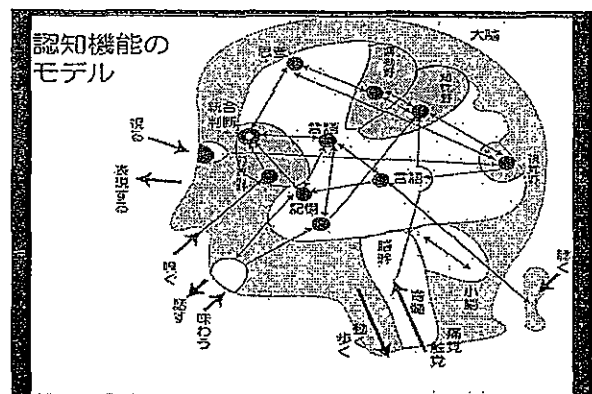
認知症の人は加齢とともに増加し、5 歳区切りで倍々となっていくます。認知症かどうかのポイントは 3 つあります。1つは記憶の低下、2つは認知障害です。言葉のやり取り、場所の見当、手順を踏む作業、お金の計算が難しくなる、ほかに親しい人の顔も認識できないこともあります。そして、3つ目の生活の支障をきたすときに初めて認知症という診断が下ります。今までの暮らしができなくなったとか、周りトラブルを起こすという条件です。これは年のせいだけでは起こりません。必ず原因疾患があります。



認知機能という電車でたとえてみると、電車が走っていくためには、車輪がきちっとしていないといけません。前の車輪はうつ病がないこと、後輪は意識が清明であることです。うつ病があるときには認知機能が低下することがありますがこれは認知症ではありません。車輪が悪いだけです。電車そのものが壊れるのがアルツハイマー病、レビー小体病などです。架線と電車をつなぐパンタグラフの故障が脳血管障害です。ですから、この病気の予防というのはこれらの病気を予防することだと私は考えております。



脳は、情報の収集、情報のプロセッシング、情報のコントロールそして情報をアウトプットするといったコンピュータとしての機能を果たします。ここで申し上げたいのは脳のそれぞれの神経細胞の集団、位置です。脳の場所によって働きが違います。たとえば耳から聞いてそれから言語のところに行って、記憶と照らし合わせて「経験ではこうだった」と思って判断をする。前頭前野で判断をして、前頭葉にある言語中枢の指令で話すということになります。



アルツハイマー病の場合はことに段階があって、正常から軽度の認知障害それから認知症になって軽度、中等度、高度となります。正常と

